



母音3組の聞き分けトレーニングや「シャツ」のように日本語の発音が英語とかけはなれている単語の聞き取りを行います。

Chapter2 基本文（文法項目）を帰納的に理解し、使えるようになる！

「教科書の場面設定以外でも、基本文が使われている生活場面を見聞きさせたい。」

このように考えていろいろ工夫を重ねておられる先生方は多いと思います。でも、それを手作りプリントなどで毎回用意されるのは大変です。Chapter2の左側のページはそんな先



生方に役立てて頂きたいという思いで作った導入用のページです。

例えば、p.24の There is ~, There are ~ の左ページの家の間取り図。CDではアメリカから引越してきた幼い女の子がおばあちゃんに電話で新しい家の様子を伝えていますが、授業では、この間取り図を使ってメモリーゲームをしたり、地下室にあるものを想像させたりと自由に使って頂ければと考えています。

右のページに設けたActivityは「必要な情報を得るために」基本文を使って会話のやりとりをする活動です。例えば p.25は、ペアワークで相手を選んだバッグを当てるために「Is there ~? Are there ~?」の質問をするのですが、あらかじめ答えを推理して質問し、可能性があるものをしぼっていけば、2回から4回の質問で相手のバッグを特定できるようになっています。このことを理解させた上で、制限時間（例 1人1分）を設けてやらせると、生徒はちゃんと考えながら効率的に質問するようになりやすくなります。

運用力をつけるための活動で注意したいのは、「ただ基本文を言わせるためのドリル的な活動」はさせないということです。知りたいから（情報が必要だから）尋ねる、そのための手段として基本文を使うのであって、基本文を言うことが目的になってしまつては意味がありません。『ENAVI2』のActivityは、新しい文法項目の学習直後よりも少し期間を置いてからの方が、活動がスムーズで文法項目

の定着度も高くなる傾向が見られるのですが、これは活動中の生徒が文の「型」よりもやりとりする情報の「内容」に意識を向けているため、習得した文法知識をより実践的に活用できているからではないかと考えています。

活用例

例えば体育の授業の後や5時間目、クラスの集中心力が落ちてきたと感じたら、「アメリカの小学校の算数にチャレンジ」や「IQテストに挑戦！」（所要時間2〜3分）がおススメです。



「女の子が3人家にいました。1人やって来て2人出ていきました。女の子は今何人？」「ポチはシロより小さい、ポチはジョンより大きい。一番小さいのは？」など。簡単な英語なのに、ちゃんと理解しないと答えが出せない。中学生はこういうちよつと難しめの問題が大好き。クラスの集中心力が一気にアップします。